

# 2021年度薬価改定について (2020年薬価調査結果について)

# 薬価調査結果の速報値

項目	2015	2017	2018（中間年）	2019	2020（今回）
平均乖離率	<u>8.8%</u>	<u>9.1%</u>	<u>7.2%</u>	<u>8.0%</u>	<u>8.0%</u>
回収率 () 内は調査客対数	72.3% (6,280客体)	79.2% (6,291客体)	85.0% (6,153客体)	87.1% (6,474客体)	86.8% (4,259客体)

項目	2015	2017	2018（中間年）	2019	2020（今回）
妥結率※ (薬価ベース)	97.1%	97.7%	91.7%	99.6%	95.0%

※ 妥結率は、価格妥結状況調査の結果による。

## 乖離率の推移（投与形態別）

区分	2015	2017	2018	2019	2020
内用薬	9.4%	10.1%	8.2%	9.2%	9.2%
注射薬	7.5%	7.3%	5.2%	6.0%	5.9%
外用薬	8.2%	8.0%	6.6%	7.7%	7.9%
歯科用薬剤	-1.0%	- 4.1%	- 5.7%	- 4.6%	- 0.3%

# 乖離率の推移（主要薬効群別）

【内用薬】	2015	2017	2018	2019	2020
その他の腫瘍用薬	7.1%	6.6%	5.1%	5.1%	5.1%
糖尿病用剤	10.3%	10.6%	8.6%	9.9%	9.5%
他に分類されない代謝性医薬品	9.1%	9.5%	8.0%	9.0%	9.1%
血圧降下剤	11.4%	13.3%	11.7%	13.4%	12.1%
消化性潰瘍用剤	13.3%	13.1%	10.8%	12.3%	11.7%
精神神経用剤	8.5%	10.8%	8.1%	10.0%	9.7%
その他の中枢神経系用薬	9.9%	9.5%	7.9%	8.6%	10.4%
血液凝固阻止剤	6.0%	6.2%	5.1%	5.6%	5.3%
高脂血症用剤	12.0%	12.7%	12.2%	13.9%	13.8%
その他のアレルギー用薬	12.3%	14.5%	11.8%	13.6%	13.6%
【注射薬】	2015	2017	2018	2019	2020
その他の腫瘍用薬	6.9%	6.0%	4.3%	5.0%	5.3%
他に分類されない代謝性医薬品	8.6%	7.8%	6.0%	6.3%	6.7%
血液製剤類	4.1%	4.1%	2.3%	3.3%	3.0%
その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）	8.0%	8.4%	6.5%	7.8%	7.9%
その他の生物学的製剤	4.5%	4.6%	3.8%	3.8%	3.3%
【外用薬】	2015	2017	2018	2019	2020
眼科用剤	8.6%	7.8%	6.8%	8.0%	8.4%
鎮痛、鎮痒、収斂、消炎剤	9.3%	9.3%	7.6%	8.9%	8.6%
その他呼吸器官用剤	7.5%	7.6%	6.0%	6.8%	7.6%

# 2021年度薬価改定に係る論点について

- 2021年度薬価改定については、「薬価制度の抜本改革に向けた基本方針」、「薬価制度の抜本改革について 骨子」や骨太方針2018・2019に関連記載があり、骨太方針2020では、「骨太方針2018等の内容に新型コロナウイルス感染症による影響も勘案して、十分に検討し、決定する」とされている。
  - ※ 「基本方針」では「価格乖離の大きな品目について薬価改定を行う」とされ、「薬価制度の抜本改革について 骨子」では「対象品目の範囲については、～国民負担の軽減の観点から、できる限り広くすることが適当である」「医薬品卸・医療機関・薬局等の経営への影響等を把握した上で、～これらを総合的に勘案して、具体的な範囲を設定する」とされている。
  - ※ 薬価改定の検討に当たっては、その対象範囲に加え、薬価改定時のルールの適用の在り方等についても議論を行っておく必要がある。
- これらの経緯や薬価調査の結果等を踏まえ、「国民皆保険の持続性」と「イノベーションの推進」を両立し、国民が恩恵を受ける「国民負担の軽減」と「医療の質の向上」を実現する観点から、2021年度薬価改定についてどう考えるか。